

原爆被害等を疑似体験できるVRゴーグルを活用される皆様へ（お願い）

この度は、原爆被害等を疑似体験できるVRゴーグルを活用いただき、ありがとうございます。運営等に携わられる皆様には、イベントや展示、教育現場等でゴーグルを活用いただく前に、以下を御一読くださいますようお願いいたします。

【導入経緯】

被爆から80年を迎え、被爆者の更なる高齢化が進む中、次世代への被爆体験の継承がますます困難な時期に差し掛かっています。今後、確実に到来する「被爆者がいなくなる時代」を見据え、被爆者の言葉や平和への思いをしっかりと次世代に引き継いでいくことが、人類史上最初の被爆の惨禍を経験した広島市の責務であり、また、喫緊の課題であると認識しています。

こうしたことから、広島市では、新たな被爆体験継承の手法として、AI（人工知能）やVR（バーチャルリアリティ：仮想現実）などのデジタル技術を活用し、被爆者の言葉や平和への思いを的確に後世に伝える取組を進めています。この原爆被害等を疑似体験できるVRゴーグルは、そのような取組の一環として、原爆・平和展を始めとする広島市の事業で活用するとともに、他の自治体や教育機関に貸し出しているものです。

【コンテンツについて】

ゴーグルには、株式会社たびまちゲート広島が平和記念公園内で実施する、VRツアー用コンテンツの短縮版が収録されています。このツアーは、体験者が自ら平和記念公園内を歩きながら、被爆前の市民の生活様相や被爆直後の惨状、その後の復興等について、VR映像ならではの没入感をもって感じるとともに、現地において現在の広島と比較することにより、原爆被害の実相について理解を深め、平和の尊さを実感することを趣旨としています。

スタートボタンを押すと、最初、多くの人々が生活を営み、行き交う繁華街であった中島町^{なかじまちょう}（現在の平和記念公園周辺）に視点が置かれます。続けて、原爆の投下により、広島^{ひろしま}の街が一瞬にして壊滅的な被害を受けたことが分かる場面へと遷移します。その後、様々な困難を乗り越え、市民の献身的な努力により、広島^{ひろしま}の街が復興し、平和を希求する都市へと発展を遂げる様子が映し出されます。

【お願い】

被爆者一人ひとりの体験は個々に異なり、その受け止め方も多様であるからこそ、広島市では、被爆の実相について正確に、そして多面的に伝えることに重きを置いています。また、被爆直後の惨状やその後の苦難について、被爆者が「筆舌に尽くしがたい」と表現するとおり、最先端のテクノロジーをもってしても、また、文字・画像・映像の別に限らず、いかなる媒体を介しても、これらを完全に再現することはできません。

年月の経過を踏まえても、平和の尊さを「自分ごと」として捉えてもらうために、継承の過程において、被爆体験証言者の講話聴講や、広島平和記念資料館や平和記念公園の見学を始めとする、「直接的な体験」を得ることは極めて意義深いものです。

運営等に携わられる皆様には、是非、これらの趣旨を御理解いただき、このVR体験を原爆・平和の問題に関心を寄せていただく契機として、体験される方々に対し、被爆地ヒロシマを直接訪れ、被爆の実相について理解を深めていただくよう、呼び掛けていただけますと幸いです。